



新型コロナウイルス感染拡大の影響で雇用情勢が悪化している。全体的に失業率が上昇基調にあるのに対して解説する。

し、ドライバーを中心に物流の人手不足は依然として改善されていない。

ペーパーレスは利点確認を

基本的な対応として「人手作業を減らすこと」と、「人手を増やすこと」の2つがある。輪配送では、無いた情報をデジタル化する。駄になる「空間」と「時間」ことで、紙への記入、紙からデータ入力、紙の保管を排除することも有効となる。今回は、輪配送の効率化に向けてさまざまな企業が注目する、人手作業を減らす「ペーパーレス」と、空は、企業が生き残る上で重



クニエ

ロジスティクスグループ

大室 翔史

マネージャー

輪配送効率化のポイント

輪配送業務効率化のポイント

① ペーパーレス化



「自社内にとじた書類」から「社外と取り交わす帳票」へ

② 共同配送



マッチングサービスを利用した共同配送の可能性検証

③ 荷待ち時間削減



業界内で多く使用される予約受付システムの導入

要な取り組みとなる。

ペーパーレス化の取り組みでよく課題提起されるのが、取引先との調整や指定伝票など、古くから続く商習慣の変更への単純な拒否反応がある。

こうした課題は、取引先との地道な交渉や調整が必要だがそれらは簡単なものではない。だが運用体制をしっかりと構築することができれば、効率化を図ることができる。

共配はマッチングがお勧め

共同配送は企業により進捗度合いに違いがあるが、関心を持つ企業は増えている。これまでの課題では復路の荷物確保が難しく、積載率が低いことが指摘されてきた。だが、近年はドラ

には、取引先バー不足で貨物が運べない、廃止によることへの荷主企業の懸念が高まり、以前より取り組みやしやすい環境になって社役割を明ける。何から始めるべきかわからない場合は、まずは共同伝票の情報源配送のマッチングサービスの利用を勧めたい。一部でも取り入れるところから始め、自社の物流が他とどのくらいマッチし、共同配送できる可能性があるのかを認識することが大切と言える。

荷待ち時間の削減では、トラックのバス予約受付システムの開発・導入が進んでおり、中にはトラック着荷時間の予約により待機時間を70%削減した事例も出ている。大きな投資が必須なものだけでなく、無料で使えるものも登場し、導

おおむろ・しょうじ 2010年米ナショナル大経営学修士、外資系3PLプロバイダーで複数の倉庫の立ち上げ運営管理を経験。後に日系コンサルティングファーム勤務を経て、17年クニエ入社、現職。物流領域での業務改革やシステムコンサルティングを手掛ける。